

戦後日本における高等教育中退に対する出身階層の影響

○東北大学 三輪 哲
東北大学大学院 下瀬川 陽

1 目的

近年、高等教育中退が問題視されるようになってきている。だが日本では、大規模データでの中退規定要因の研究蓄積が十分ではない。さらに、Eckland(1964)や Sewell and Shah(1967)などにおいて重要な規定要因の一つとされた出身階層に関して、その影響を検討した研究は日本ではほとんど行われていない。本研究では、出身階層が高等教育の中退選択に与える影響をより正確に検討することを目的とする。

2 方法

最終学校の中退および出身階層を変数として含む、複数の大規模全国調査（SSM, JLPS, JGSS）のマージデータを使用した。高等教育中退を被説明変数、出身階層を説明変数として、プロビットモデルによって検証をおこなった。なお、大学進学機会にみられるセレクションバイアスを補正したプロビットモデルも推定した。

3 結果

1959年以前の出生コーホートについては、高校中退には出身階層による大きな格差がみられた。他方、高等教育からの中退では、非熟練ブルーカラー層と自営業層の出身者においてのみ、中退が起りやすいという結果が得られた。1960年以降出生コーホートについては、高校中退も大学・短大の中退も、出身階層による影響は大きく減少した。しかしながら、セレクションバイアス補正後には、隠れた階層差が顕現した。

4 結論

大学・短大への進学を経て同質的になっているために、中退率の階層差は見えにくいものとなっているが、実のところいままも存在することが明らかにされた。高等教育からの中退にみられる社会的不平等の精査が求められる。

【謝辞】

日本版 General Social Surveys (JGSS) は大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。JGSS、SSM（寄託者：2005年SSMデータ管理委員会）、JLPS（寄託者：東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）はSSJDAよりデータの提供を受けた。記して感謝申し上げます。

【文献】

Bruce K. Eckland, 1964, "Social Class and College Graduation: Some Misconceptions Corrected," *American Journal of Sociology*, 70(1):36-50.

William H. Sewell and Vimal P. Shah, 1967, "Socioeconomic Status, Intelligence, and the Attainment of Higher Education," *Sociology of Education*, 40(1):1-23.